

2011年10月3日

富山県 市長会
会長 森 雅志 様

反原発市民の会富山
代表 藤岡 彰弘
富山市神通町 3-5-3
tel. 076-441-8613

富山県市長会への申し入れ

日頃より、貴会員のお一人お一人が、県内各地の基礎自治体の長として、地域防災に真摯に取り組んでおられること、及び、県市長会として、高い危機意識をもって国や県へいろいろと要望しておられることに、あらためて敬意を表します。

私たちは、「反原発市民の会富山」です。1980年に会を結成して以来、反原発運動、とりわけ、能登原発に対する反対運動に取り組んで来ました。今年3月に福島で未曾有の原子力災害が起きて以来、私たちは、「反原発県内キャラバン」と称して、能登原発現地に近い自治体から順に、湾岸沿いに県内各自治体を訪ね、「市長への申し入れ」行動を連続的に行って来ました。そしてこの10月上旬には、残りの湾岸沿いの市や内陸部の市町村を含む、県内の全ての市町村自治体を訪ね、「首長への申し入れ」を連続的に行う今年の「キャラバン」を、完了する予定です。

私たちは、この「キャラバン」を通して、各自治体の首長さんや担当者の方と直接お話しすることで、自治体によって多少の温度差はあるものの、志賀原発再稼働に対する不安、国の原子力防災の指針が定まらないことに対する焦燥といったものを、肌で感じました。

このことから、各自治体での独自の取り組みはもとより、富山県内の自治体として連携して事に当たることも、この際、必要ではないかと考え、次の三点について申し入れます。誠意をもって、対処していただけますよう、お願い申し上げます。

記

1. 県内各市町村自治体が、志賀原発を所有する北陸電力との間で、安全協定を結ぶことを北電に求めていくこと。また、県市長会として、北陸電力に対し、その旨を表明し、各自治体が横に連携して、北陸電力に対しそれを迫ることができるよう、積極的にサポートすること。
2. 富山県との間に、原子力防災をどう考えるか、協議する場を県市長会として求めること。具体的には、地域防災計画に原子力防災をどう位置付けていくのか、北陸電力との安全協定締結をどう進めていくのか、原発立地自治体としての石川県、志賀町との関係をどう築くのか、原子力災害時の広域連携をどう進めるか等、防災全般を扱う会議の中の一部として扱うことでは間に合わない様々な問題について、これまで以上に踏み込んだ協議をする場を求めていくこと。
3. 原発立地自治体に隣接する自治体を始めとする、石川県内の自治体との連携を積極的に図り、北陸電力との安全協定締結について、県境を越えて自治体間で連絡を取り合い、共同歩調がとれるよう、サポートすること。

